

### 『日本の進路を決めた10年』(増補改訂版)の出版記念会を挙

10月31日、ホテルルポール麹町(東京・千代田区)で、『日本の進路を決めた10年』(増補改訂版)の出版記念会が執り行われた。

本書は、戦後の混乱期、MRA運動(平和運動)の日本駐在代表として日本の国際社会復帰に尽力したバズル・エントウィッスル氏による在日本体験記を、参院議員・藤田幸久氏(下写真中央)が翻訳、1990年に出版された『日本の進路を決めた10年』の増補改訂版である。

同記念会では、まず主催者を代表し、国際IC日本協会会長・矢野弘典氏(下写真右端)が増補改訂版の出版について「お忙しい中にもかかわらず、実に緻密な作業をされた労作です。心から敬意を表する次第です」と挨拶。

次に対談に移り、藤田氏が進行役となり「日本を救った先人たちに学ぶ」をテーマに、日本総合研究所会長・寺島実郎氏(下写真左から2番目)、日本政策投資銀行相談役・橋本徹氏(下写真右から2番目)、藤田氏の3人で進められた。藤田氏は、本の説明、そして今回増補改訂版の出版を決めた3つの理由を広島県にある「原爆死没者慰霊碑」に書かれている「過ちは繰返させぬから」の碑文の経緯を知らない方に歴史的事実を知ってもらいたいため、「サンフランシスコ講和条約」を結ぶ際、参加をしていない4つの隣国、中国、ロシア、北朝鮮、韓国に壁があり、各国との信頼関係を築いていくことが一番重要であること。そして、世界中が争いに満ちているが、それを止める力を日本の中で起こしていかなければならない等と力説した。



最後に、東アジア共同体研究所理事長・鳩山由紀夫氏(写真左端)から「今日は、寺島先生と橋本先生のお話を伺って、大変私も勉強させて頂きました。改めてご来会の皆さんとともに、藤田さんの将来に期待したいと思っております」と挨拶した。

その後、会場を2階に移し懇親会がスタート。同会では、各界の有識者からの挨拶や、祝辞が読まれた。藤田氏は、「日本が戦後、これだけのことを成し遂げたということは、ただ単に、日本のチームワーク、文化ということではなくて、勇気を持って自分の立場を超えて、決断をした人達がいたということです。先人達が成し遂げたことを、我々は広めていかなければならない。そうした意思の運動のツールとしてこの本を使って頂きたい」と熱く語った。乾杯の音頭は、民進党国会対策委員長・山井和則氏が代表して行った。

